

**広島県立世羅高等学校管理教室棟（1号棟）改築その他
工事に伴う実施設計業務委託の設計者選定結果について**

1 選定結果

広島県立世羅高等学校管理教室棟（1号棟）改築その他工事に伴う実施設計業務委託の設計者選定について、公募型プロポーザルを実施した結果、次のとおり、設計者の候補者として、特定者と次点者を特定しました。

特定者	大旗連合建築設計 株式会社
次点者	株式会社 白土建築設計事務所

2 審査経過等

(1) 設計者選定審査委員会

専門知識を有する学識経験者、実務経験者、施設管理者及び行政職員等で構成する「広島県立世羅高等学校管理教室棟（1号棟）改築その他工事に伴う設計者選定審査委員会」（以下、「設計者選定委員会」という）を設置し、技術提案書の特定等に係る審査を行いました。

[設計者選定委員会委員（順不同・敬称略）]

委員区分	氏名	役職等	審査の視点
委員長	塚本 俊明	広島大学産学・地域連携センター 教授	都市計画
委員	村重 保則	公益社団法人日本建築家協会中国支部 直前支部長	建築デザイン
委員	錦織 亮雄	公益社団法人広島県建築士会 会長	建築設計
委員	島村 隆義	国土交通省中国地方整備局営繕部 整備課長	営繕行政
委員	沖 丈博	世羅町建設課 課長補佐	まちづくり
委員	森嶋 勝也	広島県立世羅高等学校 校長	施設管理者
委員	河原 直己	広島県土木局 建築技術部長	建築行政

(2) 審査概要

ア 技術提案書の提出者の選定（一次審査）

11者から提出された参加表明書を審査し、参加資格等の確認と共に、技術提案書の提出者の選定（10者選定）を行いました。（10者選定のうち1者が技術提案書の提出を辞退）

イ 技術提案書の特定（二次審査）

9者から提出された技術提案書を審査し、技術提案書の特定（特定者1者及び次点者1者）を行いました。

[審査経過]

平成25年7月9日	第1回設計者選定委員会	・審査基準の策定
平成25年7月16日	公募型プロポーザルの公告	
平成25年7月29日	参加表明書の提出期限	・提出者11者 (内、設計共同体1者)
平成25年8月2日	第2回設計者選定委員会	・技術提案書の提出者を選定（10者）
平成25年8月8日	技術提案書の提出要請	・提出要請10者 (内1者が技術提案書の提出を辞退)
平成25年8月26日	技術提案書の提出期限	・提出者9者

平成25年9月3日	第3回設計者選定委員会	・公開ヒアリング ・技術提案書の審査、特定
平成25年9月下旬	設計業務委託契約締結 (予定)	

3 審査の講評

(1) 総評

今回のプロポーザルは、明治29年の開校以来117年の歴史と伝統がある普通科と専門学科（農業経営科，生活福祉科）で構成されている高等学校の管理教室棟を建替えるための技術提案を求めたものでした。

審査にあたっては、業務の理解度・取組意欲，業務の実施方針及び2つの特定テーマに対して技術提案書の審査やヒアリングとともに，提出者の技術力，技術者の資格，技術力を考慮した総合的な評価を行いました。

特定テーマの“地域に溶け込み地域とともに歩み続ける高等学校”については，周辺の景観への配慮，地域との交流，災害時の避難施設などの視点で，また“生徒が交流を通じてお互いを高めあえる施設”については，生徒同士，生徒と教職員など様々なコミュニケーションを作り出す場のあり方などの視点で，審査とヒアリングを行いました。

結果として，各者ともそれぞれの思いを反映した意欲的な技術提案となっていました。

しかし，全体として，地域の人が校内に入りやすいということが地域との交流であるとする提案が多く，学校という施設のあり方から考えると，一定の仕切りを設けることも必要ではないかという意見や，広場を設けることだけでコミュニケーションが成立するという考え方は楽観的であり，ある種の仕掛けが必要ではないか等の意見もありました。

(2) 特定者

特定者の技術提案は，特に業務の理解度及び取組意欲について高く評価されました。

また，技術提案に加えて技術者の資格や実績を含めた総合力により特定されたものです。

特定テーマの「地域に溶け込み，地域とともに歩み続ける高等学校としてふさわしい施設計画の考え方」に対しては，地域に「見える学校」と「見せる学校」をキーワードとして地域との関係性を創出しようとするもので，街並みからの視線を意識した配置計画や地域開放回遊動線の採用，見えることによる防犯対策にまで言及されていることが評価されました。

もうひとつの特定テーマである「生徒が交流を通じて，お互いを高めあえる施設づくりの考え方」については，普通科と専門学科との交流と独立性について，テラスを挟むことを提案した配置計画などが評価されました。

地域の山並みをモチーフとした外観に対しては，評価できるという意見と同時に，コスト面に対する指摘や既存校舎との関係性に配慮が必要であるといった意見が出されました。

総じて，細部にわたって十分に検討がなされていたことから，総合的に高い評価を得たものです。

(3) 次点者

次点者は技術提案，技術者の資格や実績ともに安定的な評価を得て，総合力を評価されたものです。

学校と地域との関係性については，「学園通り」と繋がりを深める施設計画という明快な考え方による「学園通り」との形態的な調和や一体感を高める地域開放エリアの設定と同時に，地域開放に伴うセキュリティラインの確保にまで言及されていることが評価されました。

生徒間の交流については，生徒同士，生徒と地域，生徒と教職員など，様々なコミュニケーションの誘発に応じた場の構成が評価されました。

また，各テーマに対しての明快な配置計画による提案も評価されました。

総じて，教育の場としての完成度の高さが，高く評価される提案でした。